

発行所 〒802-8651 北九州市小倉北区紺屋町13-1 (公財)毎日新聞西部社会事業団
 発行人 瀬尾 健悟
 電話 093-551-6675 ファクス 093-541-8009
 E-mail: s-maiswf@cotton.ocn.ne.jp
 郵便振替 01770-2-40213
 URL http://www.mainichiseibu-shakaijigyo.biz/

「愛の義援金」は12月27日の約1カ月を募集期間とし、これまでに何らかの募金をいただいた方や歳末チャリティー展で作品をご購入いただいた方々にチラシや振込用紙などを郵送、19年度は約5470人にお力添えをお願いしました。募金は、さまざまな社会福祉事業の資金となる社会福祉寄金のほか、用途を指定した海外救援金、小児がん征圧募金、東日本大震災救援金、毎日希望奨学金、台風15号被害救援金も並行して受け付け。11月末、毎日新聞紙上に社告を掲載、ホームページでも協力を呼び掛けたところ、期間中に多くの善意が寄せられた。集まった浄財を寄託した福岡県飯塚市の飯塚聖母幼稚園の皆さん



毎日新聞社と毎日新聞西部社会事業団が協力をお願いした2019年度の歳末助け合い募金「愛の義援金」の結果がまとまった。一般募金(社会福祉寄金)に東日本大震災救援金、小児がん征圧募金などの指定寄付を合わせて689件、770万4597円が寄せられ、前年度を約100万円下回った。社会福祉寄金は、児童養護施設や母子施設、障害児施設で生活している子どもたちへの新入学・卒業プレゼントや福祉諸団体への助成金として活用、指定募金は関係機関や団体に贈る。

募金総額は770万円 「愛の義援金」

東日本で大きな被害が出た台風19号被害の救援金は、64件で約117万円▽台風15号被害救援金は2件で約7万円だった。小児がん征圧募金、海外救援金の件数は前年度を上回ったが、額は大きく下回った。また、この3月で丸9年となる東日本大震災の関連募金は、「毎日希望奨学金」「救済金」ともに件数は横ばいだったが、額は奨学金が約25万円減った。

19年度歳末助け合い募金集計

	19年度		18年度		前年度比	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
一般募金	385	4,125,010	412	4,068,299	-27	56,711
海外救援金	72	435,342	60	865,755	12	-430,413
小児がん	69	450,857	67	723,864	2	-273,007
小計	526	5,011,209	539	5,657,918	-13	-646,709
東日本大震災救援金	3	215,000	2	210,000	1	5,000
希望奨学金	93	1,136,979	86	1,381,535	7	-244,556
西日本豪雨災害救援金	0	0	20	1,062,089	-20	-1,062,089
台風19号被害救援金	64	1,171,167	0	0	64	1,171,167
台風15号被害救援金	2	70,242	0	0	2	70,242
北海道地震救援金	0	0	11	223,150	-11	-223,150
熊本地震救援金	1	100,000	2	300,000	-1	-200,000
合計	689	7,704,597	660	8,834,692	29	-1,016,023

当事業団では長年、歳末募金を基に児童養護施設や母子施設の子どもたちへの新入学・卒業祝い品プレゼント事業を行っており、今年度も福岡、山口両県の施設を対象に調査用紙を配布。今春小学校に入学予定の子どもや中学・高校を卒業予定の生徒たちの人数や希望するプレゼントを調べてもらった。集計すると、対象者は63施設、440人であることが分かった。新入学児童にはランドセルやリュックサック(水筒付き)▽手提げ(筆箱付き)▽雨具セット▽

★新入学・卒業祝い品プレゼント★

63施設の440人に

図書カードのいずれか希望の品を、中学・高校を卒業予定の子どもたちには目覚まし時計か図書カードを贈った。このほか、歳末募金の第二次配分として、山口県の共同募金会▽福岡県の交通遺児を支える会▽九州指導犬協会▽福岡、北九州のいのちの電話▽北九州あゆみの会▽障害福祉ボランティア協会▽ホームレス支援の「抱撲」の福祉8団体に前年度と同規模の活動助成金を贈った。

歳末チャリティー即売展

売り上げ前年下回る

全国で活躍する一流作家の皆さんにご協力いただき、年末に実施している毎日新聞西部社会事業団恒例の歳末チャリティー「全国寄贈書画・陶工芸品即売展」は、2019年も12月第1(3週)の土・日曜、北九州(小倉)、山口、福岡の3会場で開催。常連の方を中心に美術ファンが訪れたが、3会場の売り上げ合計は約1010万円にとどまり、前年度を下回った。



お気に入りの作品を求める来場者(山口会場で)

皮切りとなる北九州展(12月7、8日)は、今も小倉北区の小倉井筒屋新館パステルホールで開催。14、15日が山口展(山口市の山口井筒屋催場)▽21、22日が福岡展(福岡市中央区のアクロス福岡)だった。

より多くの皆さんに会場してもらうため、チラシの作成・配布▽毎日新聞紙上での特集掲載▽各

会場展直前の地方版広告▽テレビ局によるニュース放映▽事業団ホームページ(H.P.)での作品紹介▽フリーペーパーへの記事掲載——を実施。さらに、毎日新聞読者以外へ情報を提供するため▽ツイッターでの呼びかけ▽ホームページ(H.P.)上で新聞紙面に掲載した寄贈者名や出品会場などの紹介——を行い、初めてWEB広告も利用した。

その結果、客足は昨年並みだったが、10月からの消費税引き上げもあり売り上げは伸び悩み、対前年比で約120万円ダウンした。

また、3月7日には毎日西部会館で、年度末展を開催。年末展で入札にした作品をはじめ、約2000点をさらに求めやすい値段で展示・即売した。

即売展の売り上げから諸経費を差し引いた益金は、児童福祉や障害者福祉、高齢者福祉、交通遺児支援、ホームレス自立支援などの活動に取り組み団体などへの助成金など、さまざまな福祉事業に活用する。



節目の年祝う

知的障害のある人の人生の節目を祝う「第39回出発(たびだち)」を励ます集い(北九州市など主催、毎日新聞西部社会事業団後援)が1月25日、北九州市戸畑区のウエルとばたであり、保護者ら約150人が家族の新たな出発を祝った。

集いは知的障害者への支援制度が十分でなかったころ、成人や入学のお祝いをしたのが始まりで、毎年この時期に開いている。成人や還暦、今春の小学校入学予定などの節目を迎え、集いに出席した24人に記念品が贈られた。写真。



第30回記念全国ふうせんバレーボール大会(日本ふうせんバレーボール協会主催、毎日新聞社なご後援)が2019年12月1日、北九州市八幡東区の市立総合体育館で開催された。県内外や香港から計48チームが参加、交流を深めた。写真。

ふうせんバレーボールは、9年に同市で誕生。競技はバドミントンコートを使い、鈴が二つ入った直径40センチのボールを1メートル以内のコースで相手コートへ返す。



編集後記 ◆歳末チャリティー「全国寄贈書画・陶工芸品即売展」の北九州、山口、福岡3会場で、多くの皆さんに作品をお買い上げいただきました。また、歳末助け合い「愛の義援金」でも、たくさんの方から浄財を頂戴しました。いずれも、当事業団が予定している社会福祉事業の資金として活用させていただきます。ご協力に改めてお礼を申し上げます◆今年度も作品輸送や会場設営などで、中越輸送さん▽毎日メディアサービス山口さん▽毎日新聞西部アシストさんに大変お世話になりました。ありがとうございます◆当事業団の活動は事業団だより「そよかぜ」のほか、ホームページやツイッターなどでもお知らせしています。今後も、これまで同様お力添えをよろしくお願いいたします。